



平成 30 年 2 月 8 日

各位

会社名:フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(コード:8462 JASDAQ スタンダード)
代表者名:代表取締役社長 松本 直人
問合せ先:執行役員管理部管掌 富永 真哉
(TEL:075-257-2511)

前年同期の実績値(連結)との差異に関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 3 四半期 (自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 12 月 31 日) の業績(連結)につきまして、前年同期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 3 四半期の業績と前年同期実績値との差異

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 1 株当たり四半期純利益 |
|---------------------------|-------|------|------|------------------|--------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 平成 29 年 3 月期第 3 四半期実績 (A) | 308 | △555 | △590 | △359 | △47.93 |
| 平成 30 年 3 月期第 3 四半期実績 (B) | 570 | △33 | △21 | △151 | △17.03 |
| 増減額 (B-A) | 261 | 521 | 568 | 207 | — |
| 増減率 | 85.0% | — | — | — | — |

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間においては、未上場企業の営業投資有価証券の売却を進めたこと及び当社が運営するファンドにおける連結除外の影響で、内部取引として相殺消去される管理報酬の額が減少したこと等により、売上高は増収となりました。国内外の子会社数の増加により経費は増加しましたが、営業投資有価証券の売却益により、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失の赤字幅は縮小いたしました。

なお、持分法による投資利益を営業外収益に計上しております。これは当社持分法適用関連会社である株式会社デジアラホールディングスに係るものであります。

また、株式会社 All Nippon Entertainment Works の株式取得に伴う負ののれん発生益(特別利益)を計上いたしましたが、その後、同社株式の譲渡により関係会社株式売却損(特別損失)を計上したことに加え、米国コロラド州におけるコワーキング事業の撤退により特別損失を計上しております。これらに伴う特別損益全体が業績に与える影響は軽微であります。

以上